

海嶺下における熱水変質作用の新たな展開：オマーンオフィオライトにおける緑泥石岩発見の意義

New aspect on the hydrothermal alteration system beneath ocean ridges: Significance of chloritite rocks from the Oman ophiolite

宮下 純夫 [1]; 根尾 夏紀 [2]; 足立 佳子 [1]; 田中 真二 [3]; 戸松 敬 [4]

Sumio Miyashita[1]; Natsuki Neo[2]; Yoshiko Adachi[1]; Shinji Tanaka[3]; Takashi Tomatsu[4]

[1] 新潟大・理・地質; [2] 新潟大, 自然; [3] 新潟大; [4] (株)キタック

[1] Dep. Geol., Fac. Sci., Niigata Univ.; [2] Fac. Sci., Niigata Univ.; [3] Niigata Univ.; [4] KITAC Corp.

オマーンオフィオライトに異様な組成を有する黒色岩体が存在することは前に報告した(根尾ほか, 2004 合同学会)。その段階では黒色岩体が周囲の岩石に貫入しているとの観察から, いくつかの成因の可能性を論じたが, 説得力のある結論を導き出すことはできなかった。その後, 最初に発見した岩体(ヒルチ南岩体)を再度詳細に調査することにより, この黒色岩体は貫入岩ではなく, 強度な熱水変質作用によって形成されたとの結論を得るに至った。一方, 同一の特徴を有する黒色岩体をさらに2カ所から見いだした(バニウマール岩体・スヘイリ岩体)。これらの黒色岩体は, いずれも上部ガブロの最上部付近に出現しており, これら3つは全てほとんど同一の層準に出現することが明らかとなった。本講演では, これら3つの黒色岩体の産状と特徴, 全岩組成の特徴を報告し, 海嶺下における熱水循環に関する意義について考察する。